

情報通信審議会 情報通信技術分科会 産学官連携強化委員会  
重点課題WG（第5回）議事概要

1 日 時 平成22年1月22日（金） 10時00分～11時40分

2 場 所 総務省8階 共用801会議室

3 出席者（敬称略）

構成員

森川博之（主任）、伊藤崇之、宇野嘉修、冲中秀夫、勝部泰弘、加納敏行、唐弓昇平（代理：丸山博行）、木下進、関口潔、谷口浩一、富永昌彦、西村信治、端山聡、森田温（代理：丹野興一）、横井正紀（代理：中林優介）

事務局

奥英之（技術政策課長）、山内智生（同課研究推進室長）、藤田和重（同課企画官）、杵浦維勝（同課課長補佐）、藤井信英（同課課長補佐）、他

4 議事要旨

（1）委員会報告の骨子について

事務局より、重-5-1に沿って、報告書の骨子イメージについて説明があった。

（2）社会ニーズにもとづく課題の整理について

事務局より、重-5-2及び重-5-3に沿って、社会ニーズの整理（案）等について説明があった。

（3）研究開発課題について

事務局より、重-5-4及び参考2に沿って、重点研究開発課題について説明があった。

（4）ディスカッション

（1）～（3）の説明を踏まえ、ここよりディスカッションとなった。主な議論は以下のとおり。

加納構成員：先日のハイチ大地震では通信網が全て寸断され、安否情報などが全く入って来なかった。今挙げられた重点課題は地上のICT技術にとどまっている気がする。

「災害・緊急時ニューメディア活用通信」「環境センシング」などに含まれるのかもしれないが、宇宙に目を向けたキーワードがあってもよいのではないか。

森川主任：社会ニーズで言うと2-2の災害・犯罪・事故の防止・対処に入るのか。

加納構成員：災害では一方向の通信だけではなく、双方向の通信も重要。光も空間上で安定した通信ができる技術が確立されれば新たなプロトコルが生まれる。すでにNIC Tでは「きらり」という技術試験衛星での実験も行っていると聞いている。また災害・犯罪だけでなく、環境への貢献にもなるし、世界へ貢献できる日本発の通信衛星があれば、国際競争力の強化にもなると思う。

谷口構成員：参考2にある①～④の観点は課題を絞り込む時の評価基準であると思う。その評価の結果として重-5-4の重点研究開発課題が選定されたと理解しているが、その際のマッピングなどはどうしたのか。

事務局：参考2は土台として、ひとまず広めに研究開発課題をまとめたものである。今後プライオリティ付けにあたっては、参考2の4つの観点で評価することになるが、現段階でいただいたものは記述も様々で比較可能な状態ではない。今後は比較のための材料をいただき、メニューをある程度そろえた上で比較検討していくことになる。

関口構成員：基本的に課題は網羅されているかと思うが、重-5-3の課題と参考2の課題の整合性が一部整理されていないように思うので、そこはこれからの作業かと思う。また、コグニティブ無線やソフトウェア無線も最重要課題に入れてもよいものかと思うし、「新たな電波の活用ビジョンに関する検討チーム」で議論されている

- 内容も今後入れていけると良い。
- 伊藤構成員 : 重-5-3では社会ニーズとしてユーザーインターフェースというキーワードが出てくるが、重点研究開発課題では印象が薄くなっている。普及までの成果展開を見据えると、ユーザーインターフェースは非常に重要かと思うが、そのための研究をどこかに位置づけられないか。
- 加納構成員 : 技術課題についてまとめられているが、これらを国際的に展開するための（標準化などの）キーワードも入れ込んでいくのだろうか。推進戦略WGにもかかる話かと思うが。
- 谷口構成員 : 重-5-1の3つの赤枠部分の柱はこのWGの作業範囲なのか。このWGで重点課題を絞った後で、それぞれの研究課題の戦略をどう立てていくかという段階で赤枠の観点を踏まえることになるのか。あるいは、研究課題の絞込みの段階で、赤枠も評価基準とするのか。いずれの立場かで、作業範囲が大きく変わってくるのではないか。
- 事務局 : 推進方策は大きく分けて2種類ある。1つは個別の課題には依存しない資金制度や評価制度に関する共通的な方策であり、そのような方策を議論する時は3つの柱を踏まえつつ制度を設計していく必要がある。もう1つは個別の課題ごとにどう戦略を立てていくかという方策であるが、それらについては網羅的に作ることは難しく、ある程度重点的に取り組むべきものをピックアップして、成果展開まで見据えたロードマップを作っていくのかと思う。その作業は本WGで2月、3月をお願いすることになる。
- 冲中構成員 : 重-5-2の社会ニーズの1-3として「環境モニタリング」があるが、参考2では見当たらず、まだ課題に落とし込めていないように思う。また、重-5-4の重点研究開発課題では「環境センシング技術」とあるが、資源管理の手段としてセンシングがあるのであって、名称を目的に衣替えした方がよいのかとも思う。
- 事務局 : ICTに限らず、技術課題は手段の名称がついているものがほとんどである。しかし今回はニーズの議論から入っているので、名称が目的の視点となっているものもあり、混在している状態である。ただ、ある程度目的の視点でグルーピングしながら、こういった手段で解決していくのかということが見えるようにまとめるのだろう。
- 富永構成員 : 知識社会の創成や科学技術立国に対しICTがどう貢献できるかを、報告書の中にうまく工夫して入れて欲しい。
- 加納構成員 : 「環境センシング」について、センサーでリアルな情報を取り込むだけでなく、その情報を外に出すアクチュエーションのような研究開発も入れるべきではないか。
- 事務局 : 言葉としてセンサーの対になるものはアクチュエーターなのか。
- 森川主任 : センサー情報を集めてマイニングという視点もあろうかと思うが、それは「次世代クラウド」に含めることができそうである。
- 森川主任 : ICT活用による生産性向上に「農業」というキーワードが入っているといい。また「ストリームデータ」という言葉も全体でどこかに入れたい。また、重-5-4にある「観光」というキーワードは、どういう社会ニーズに基づくものか。
- 事務局 : 過去に本WGでも意見があり、また新成長戦略にも観光立国というキーワードがある。社会ニーズで言えば「人・地域のつながり」「電子的サービスの利便性・安心・安全の向上」あたりと繋がってくるものである。
- 加納構成員 : 「観光」は「教育の高度化・機会拡大、知的社会の創成」の文化遺産アーカイブスの構築などにも繋がると思う。
- 勝部構成員 : 重-5-4の【グリーン】のところの「環境センシング技術」に代表されるように要素技術的な記述が多い。トータルの制御システムとしての技術課題が抜けているような気がする。
- 富永構成員 : 重-5-4の技術よりも一段やや高いシステムの技術をどう扱うのか。例えば、ポストIPアーキテクチャ、グリーン光ネットワーク、グリーンワイヤレスを統合したような「新世代ネットワーク」など。
- 森川主任 : そのあたりも含め、技術の粒度やキーワードについて意見を伺いたい。

(5) その他

今回の資料を構成員に送付し、資料に対する意見等をいただくこととなった。

以上